

研究の名称	亜急性期脳梗塞患者における日常生活動作能力の経時的予後予測モデルの開発と検証
整理番号	
研究機関の名称	富山県リハビリテーション病院・こども支援センター
研究責任者 (所属・氏名)	リハビリテーション療法部 長澤圭祐
研究の概要	<p>【研究対象者】 2021年4月から2024年6月まで富山県リハビリテーション病院・こども支援センターの回復期リハ病棟に入院し、かつ退院した方のうち、(1)年齢が18歳以上、(2)初発のテント上片側脳梗塞、(3)発症から2か月以内の入院、(4)入院期間が14日から180日、(5)入院時のmFIMが91点未満、の条件を満たす方。</p> <p>【研究の目的・意義】 予後予測は治療目標の設定や治療法の選択、適切な退院方針を決定するために重要です。本研究は、亜急性期の脳梗塞患者さんを対象に日常生活動作能力に関する個別性の高い回復軌跡予測モデルを開発し、その予測精度を検証することを目的としています。本研究により、特定の時点のみでなく任意の時点の予測が可能となり、より個別的な治療決定や退院支援につながります。</p> <p>【研究の方法】 本研究では、患者さんのカルテからデータを集積し、統計学的に解析を行います。</p> <p>【研究期間】 実施許可日 ～ 2026年3月31日</p> <p>【研究結果の公表の方法】 学会や医学雑誌にて公表いたします。</p>
研究に用いる試料・情報の項目と利用方法 (他機関への提供の有無)	<p>【研究に用いる情報】 診断名、年齢、性別、入退院情報、臨床評価データ、CT・MRI データなどの診療情報</p> <p>【利用方法】 収集した情報は、解析する前に氏名・患者IDなどの個人情報を削り、新たな情報は、研究用識別番号を付け、匿名化された上で、下記共同研究機関において解析されます。 なお、匿名化されたデータは、将来のより発展的な研究の情報として活用される可能性があります。また、この研究の成果を発表する際に、オープンソース化される可能性があります。いずれの場合も、情報は個人を特定できない状態に匿名化して用いられます。本研究の情報を二次利用する場合は改めて倫理審査委員会に申請し、承認を得てから行うものとします。</p>
研究に用いる試料・情報を利用する機関及び施設責任者氏名	<p>・研究代表者 富山県リハビリテーション病院・こども支援センター リハビリテーション療法部 成人療法課 作業療法科 長澤 圭祐</p> <p>・共同研究機関</p>

	<p>研究責任者 富山大学附属病院 リハビリテーション科 教授 服部 憲明</p>
研究資料の開示	<p>研究対象者、親族等関係者のご希望により、他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で研究計画書等の研究に関する資料を開示いたします。</p>
試料・情報の管理責任者（研究主機関における研究責任者氏名）	<p>富山県リハビリテーション病院・こども支援センター リハビリテーション療法部 成人療法課 作業療法科 長澤 圭祐</p>
研究対象者、親族等関係者からの相談等への対応窓口	<p>研究対象者からの除外（試料・情報の利用または他機関への提供の停止を含む）を希望する場合の申し出、研究資料の開示希望及び個人情報の取り扱いに関する相談等について下記の窓口で対応いたします。</p> <p>富山県リハビリテーション病院・こども支援センター 電話 076-438-2233 FAX 076-437-5390 E-mail ot3@toyama-reha.or.jp 担当者所属・氏名 リハビリテーション療法部 長澤 圭祐</p>